

# 町小だより

令和6年  
7月24日  
No. 688  
御免町小学校

## 雨のち晴れ

校長 相澤 祐助

雨が降る中、5年生の子どもたちは活動班の仲間とオリエンテーリングを開始しました。松や雑木の林の中の道を歩き、チェックポイントに書かれてある「言葉」を記録してくるという活動です。雨の中、森の中を歩くのはきっと嫌だろうなと思いました。しかし、子どもたちは、班のメンバーと約1時間雨に濡れながらも歩き回りました。私も一緒にコースを歩きました。子どもたちの声を聞くと「雨の中、傘をささないで歩くの楽しい」「葉っぱに雨が当たる音がおもしろい」「森や林の中には雨が当たらない場所があった」など、様々な発見や感動があったようです。



5年生の自然体験教室は7月9日（火）～10日（水）の1泊2日で、胎内市乙地区にある新潟県少年自然の家で行われました。前日からの雨で、プログラムが心配されました。オリエンテーリングは雨天決行しましたが、案の定、カヌーとグラウンドゴルフは中止となりました。胎内川上流のダムが放水を始めたのでいたし方ありません。

しかし、夕方になると雨雲が消え、キャンプファイアの時間にはなんと青空が出たのです。晴れたのです。先程までの雨がうそのようでした。5年生77名全員が手をつなぎ、歌い、踊り、ゲームをして過ごした楽しいひと時。友情の炎が赤々と燃え上がり、5年生がより強い絆でつながったことでしょう。

これまでの5年間、子どもたちも私たちも得体の知れない何かにおびえて過ごしてきたような気がします。新型コロナウイルスのみならず、何かしらの恐怖に包まれてきたようです。何か言ったり、何かしたりすれば叩かれる。自由に遊びたいのに制限される。自分が感染源になったらどうしよう。誰もが薄皮を身にまとった状態の中、思い切ったことが許されない、ひりひりする、そんな状況が続いていたようです。

しかし、5年生は自然の中で過ごすことで、何かがふっきれたような感じがするのです。厳しい雨の中のウォーキング。保護者の元を離れ子どもたちだけで過ごす経験。電気やガスを使わず、薪とライターのみで火を起こす実技。どれもが素晴らしい体験となり、一人一人の自信となっています。雨という辛さの先には、自信、友情という晴れがあったのです。子どもたちの笑顔からそのことが十分に伝わってきました。

先日、5年生の保護者の方と少しお話をしました。「校長先生、うちの子が言うんです。たまには親と離れて活動するのもいいねって。子どもから離れられないのは親なのかもしれませんね。」

いよいよ今週から夏休みです。全校の子どもたちがおおいに挑戦し、成長して学校に戻ってくることを願っています。「雨のち晴れ」の夏をお過ごしください！